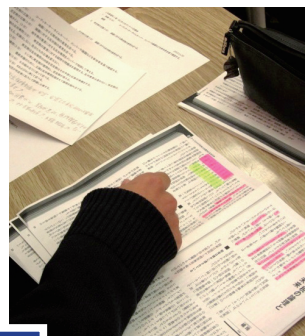


大森学園高等学校

『公開授業見学会』レポート

公開授業見学会



グループ・コミュニケーション学習

会場：大森学園高等学校
開催：2013年11月20日(水)
15:25～16:15
終了後：意見交換会／インタビュー

大森学園高等学校(私立・全日制・共学)

住所 143-0015 東京都大田区大森西3丁目2番12号

電話番号 03-3762-7336

Web <http://www.omori-gakuen.ed.jp/>

大森学園高等学校

社会に貢献できる有為なる人材を育成

大森学園は「社会に貢献できる有為なる人材を育成する」という建学の精神を基に、人や社会とのつながりを大切に、たくましく生きる力と他者を思いやる心をそなえた人間の育成に力を入れている。また、様々な学園生活を通じてコミュニケーションの大切さを教育している学校である。



11月20日（水）に『オープン the もりがく』と題した公開授業が行われました。当日は2年普通科1組の“はじめてのディベート討論会”を見学させていただきました。予め5つのグループに分かれ、“原発は必要か”“消費税増税は必要か”“センター試験は大学入試に必要か”“沖縄にアメリカの基地は必要か”などといった内容の討論が繰り広げられていました。

ディベートの流れ

- 1.準備(10分)
- ▼
- 2.肯定側の立論(3分)
- ▼
- 3.否定側の立論(3分)
- ▼
- 4.作戦タイム(5分)
- ▼
- 5.否定側の反対尋問(3分)
- ▼
- 6.肯定側の反対尋問(3分)
- ▼
- 7.作戦タイム(5分)
- ▼
- 8.否定側の最終弁論(3分)
- ▼
- 9.肯定側の最終弁論(3分)
- ▼
- 10.審判と講評(3分)



グループ内での討論の様子



審判の先生による判定・講評の様子

はじめてのディベートということもあり、限られた時間の中で最後まで討論が出来なかったようですが、グループの代表のみならず全員が意欲的に参加をし、発言する様子が見られました。

意見交換会

公開授業後に意見交換会が行われました。

※以下、議事録(抜粋)



今日はどうもありがとうございました。

授業の感想などお聞かせいただき、今後のグループ学習の授業に役立てたいと思いますので遠慮なく言っていただけたらと思います。

和泉 隆先生【大森学園高等学校】

今日は4クラス拝見させていただきました。共学校ですので本校(男子校)と比較することは難しいですが、想定していた通り、工業の生徒と普通科の生徒では気質が異なるのかなと感じます。教員の気質も含めて。

3年生工業科の授業を拝見してみて、やりづらいだらうなと感じたのですが、先生も工夫をされており、教材のシートをそのまま使用するのではなく、独自に工夫されていたところが印象的でした。

また、1年生からディベートに取り組んでいるクラスもあり、とても雰囲気良く感じました。

大場 宣夫先生【小松原高等学校】

印象的だったのは、2年生のディベートを行っていたクラスです。各グループに審判役として1名ずつ先生をつけている点が非常に良いと思いました。皆が積極的に参加しており、先生にとっても生徒にとっても勉強になるのではないかと感じました。審判役を生徒にやってもらうのも面白そうだと思います。

藤牧 朗先生【目黒学院中学校】

ディベートの授業を見学しましたが、生徒が非常に熱心に参加しているという印象でした。論題に対して素直に否定派・肯定派に分かれて率直な意見を発言出来ていたのではないかと思います。また、最後先生方によるアドバイスというのが非常に新しく感じられました。

伊藤 直木先生【上野学園中学高等学校】

あるクラスでは皆が自分の席で発表していたので、皆の前に出て発表しても良いのではないかと思いますし、別のクラスでは時間が足りなくなり最後のまとめの重要な部分が駆け足になっていたのでは時間配分も難しいのだと感じました。

同じテーマであっても、例えば事前準備をきちりやられているクラスもあれば、何もなしでただ話をするだけといったその辺りの差は感じました。教員の意識の差というのはどの学校でもあると思うのですが、学校全体でこういったものを取り入れて伸ばして行こうという意識が感じられる点は本校と違って羨ましく思います。

立石 真弓先生【自由ヶ丘学園高等学校】

あるクラスでは前回の授業の黒板が消されていない状態でこの授業に入っているクラスも見受けられましたので、生徒達にとっても、やはりまささらにして気持ちを切り替えて授業に臨んだ方が良いのではないかと感じました。また、授業の始めに机の移動から開始しているクラスもありましたが、最初に「これからやるぞ!」と生徒達を引きつけてから机の移動を行うことで、より集中出来るのではないかと思います。

本橋 忠太郎先生【自由ヶ丘学園高等学校】

ありがとうございました。

お褒めの言葉と問題点をご指摘いただきましたが、これらの意見を学年主任や各担任にフィードバックして改善していければと思います。

和泉 隆先生【大森学園高等学校】

本日はありがとうございました。

このグループ・コミュニケーションですが、やはり『自分の意見を言う』ということが最も重要だと考えています。現実にちょっとばかり勉強の成績を上げるよりも、これからは人前できちんと自分の意見を述べるということが大切であり、そういう時代だと思います。

また、今後は色々な学校の授業を見学させていただきつつ参考にさせていただきたいと思います。

畑澤 正一先生【大森学園高等学校 校長】



Interview

昨年に引き続き公開授業を見学させていただきまして、生徒それから先生方も非常にレベルアップしていて喜んでおります。昨年は和泉先生にインタビューさせていただいたのですが、今年は第2弾ということで大森学園でのグループコミュニケーションの目的とその目的を達成する為に先生方が日頃どういう取り組みをされているのか、さらにその結果としてどういう成果・効果が出ているのかといったお話を伊能先生に伺いました。

■グループコミュニケーションの目的

やはりこれからの子どもたちに必要なのはコミュニケーション能力、それからインプットとアウトプットが出来るということです。聞くだけではなく、人に伝えるというようなことを学習していかなければならないと思います。

■目的達成の為に日頃より取り組んでいること

発言の機会を作るための雰囲気作りや普段からの生徒との良好な関係ですね。本校の入試説明会という行事が年に10回あるのですが、子どもたちが初めて会った保護者の方や本校の受験を考えている保護者と生徒（中学生）を集め、本校の生徒が一人で校内を案内し説明をするといった試みを行っています。また、その入試説明会（多い時で400名）の前で発表するといったことを行っている生徒もいます。

■グループコミュニケーション授業の変化

試みの一つとして担任をチェンジして行うということですね。結果として上手な方とそうでない方はやはりいます。その中で思うことはグループコミュニケーションの教材というのは“食材”であり、それを調理するのが担任の先生ということ。担任の先生の利点としては食材を調理して食べる時、提供する人たちの食の好みを理解しているということ。その利点を上手に使える先生とそうではない先生が出てきてしまっているのかなと感じます。

■導入の成果と変化

私的にはアウトプットの機会を多く作ってあげるということ。私が学年主任の時には修学旅行の際に全クラスで各テーマについて発表の場を作りました。また、昨年は3年生（完成形）のディベートを行いました。本日は同じ教員による1年生の初めてのディベートを行いました。両方見れたのは非常に面白く、これから生徒の成長がどんどん見えてくるのではないかと思います。こういうものは今すぐに結果として反映できないのですが、例えば就職の面接に活かすことだったり、長い目で見ていかなければならないと思います。



大森学園高等学校 伊能 隆晴先生

■現状の課題と対策

食材（教材）を調理する調理師（担任）が不器用だと美味しい料理はできません。逆に良い食材を専門の調理師に委ねた場合、提供する子どもたちの好みというもの担任ほどは分かりません。ただ、その状態でこのグループコミュニケーションを行った場合にどういった結果が得られるのだろうかと考えてはいます。

■最後に一言

食材（教材）は非常に良いものや新しいものを提供していただいているので、是非それを美味しく調理できるように先生が増えて、それを子どもたちが楽しそうに食べてくれる日がきてくれると良いと思います。それが栄養となり、生徒がいつしか活躍できるような力になってくれれば良いと思っています。



出来る・大丈夫・大成功

3D 教育研究会

2013.11.20 3D教育研究会 公開授業見学会 in 大森学園高等学校

株式会社 K A 教育

〒1730012
東京都板橋区大和町 12-12
03-6784-7675